平成２６年度「岐阜県ふるさと教育週間」実施報告書

<table>
<tr><td>学　校　名</td><td colspan="3">郡上市立幼児教育センターやまびこ園</td></tr>
<tr><td>実施期間</td><td colspan="3">平成２６年１０月～平成２６年１１月</td></tr>
<tr><td>実施概要</td><td colspan="3">①祖父母との農業体験（畑作り・苗植え・収穫・一緒に食べる）
②ＰＴＡ資源回収（地域にも協力）
③地域の講師を招いての学習会（ネイチャ―ゲーム・バルシュ―レ・押花作り・お抹茶体験等）・ふるさと祭り参加
④福祉施設（やまつつじ・偕楽園）との交流</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実施内容</td><td colspan="3">学習・取組の分野
☑自然　□歴史　☑文化　□産業　☑その他</td></tr>
<tr><td colspan="3">公開の方法
□授業公開　□成果発表　☑交流活動　□講演会等
☑地域行事等参加　□その他</td></tr>
<tr><td rowspan="2">来校者数</td><td>保　護　者</td><td>１４１　人</td><td rowspan="2">計　２０６　人</td></tr>
<tr><td>地域関係者</td><td>６５　人</td></tr>
<tr><td>実施状況</td><td colspan="3">①一年間の畑作りを通して、祖父母との触れ合いや親しみをもつ。
・苗植え・収穫・焼き芋会までを通して関わることで、芋ができるまでを知ったり、祖父母に対する感謝の気持ちをもつことができた。また、じゃがいも掘りも一緒に行なったので、収穫できたじゃがいもを使ってカレー作り行い、お世話になった祖父母を招待し皆で味わうことで、収穫の喜びや食べることへの感謝の気持ちをもてるようにした。
②資源回収では大和地域全体に手紙等配布し、協力をお願いした。
・執行部による事前の回収品目早見表等の配布により、電話等で連絡があり、沢山の廃品を持って来て下さる等、協力して頂く方が多かった。今年度は、やまびこレンジャーが待機し挨拶やお礼の握手等をすることで子ども達も保護者も地域の方も温かい気持ちで帰られた。引き続き、アルミ缶回収（毎月２０日）は実施している。
③講師による学習会
・お父さんに抱っこやおんぶをしてもらい、体を触れ合うこともしながら自然に親しみ親子（父親）で触れ合う。ビンゴカードを使って、園庭を周り、子どもながらの目線になって見たり、探したりする。“クレリア”という絵本を読んでもらった後、園庭にいる”クレリア“を虫めがねを使って探しに出かけて楽しんだ。
・バルシュ―レ用のボールの感触を味わい、また、親子でボールを使って色々な投げ方（回ってキャッチ・バウンド・フープ等）をして親子で一緒に楽しむ。転がしドッチでは、当たって外に出ても子ども達は復活できるので、楽しんで参加していた。
・自分達で好きなお花を選び、ボンドにつけた花を台紙に並べて模様を作る。ラミネーターに入れると鮮やかな色になり、その出来上がりに子ども達は大喜びだった。
・畳の上を歩いたり、正座する等子ども達は新鮮で、お辞儀の仕方や作法等教えてもらい、真剣に取り組んでいた。お抹茶を頂く前の懐紙にのったお菓子を頂く時も静かで、初めて飲むお抹茶も味わいおいしく飲んでいた。
④福祉施設の利用者との交流
利用者の方に歌や手遊びを披露したり、手を握ったり、摩ったり触れ合うことで、利用者の方に元気になってもらうようにした。また、子ども達が交流することで、労りや優しい気持ちを育て、お家の祖父母の愛情に気付き、家族を大切にする気持が育つように繋げる。</td></tr>
</table>

成果及び課題	・今年度の資源回収については、事前に大和地域全体に品目等の手紙を配布したので、広範囲の地域の方の協力が得られ、多方面から電話での問い合わせがあったり、「集めとったで持って来た」「貰って貰えるでありがたい」等、次々に園まで持って来て下さり、感謝の気持ちでいっぱいになった。また、卒園された保護者の方達も多く、「持ってきたよ」と、卒園しても園の子ども達に役立ててほしいとの思いで来て下さり、保護者や地域の方との繋がりが深まっていることに嬉しくなった。 ・地域の方を講師として招いての学習会は、祖父母を始め、いろんな方に指導を受けることによって、保育者とは違う目線や関わり方が新鮮で、子ども達は真剣に取り組む姿が見られた。どの指導も、そこで終わるのでなく園の遊びに繋がり、子ども達の遊びの様子（子ども達はその事を取り入れ、遊びを広げて楽しんでいた。）をクラスだよりや園だより等で知らせている。色々な体験を通して、地域の環境（文化）に親しみ、触れ合い、助けて頂きながら、地域と一緒に子どもを育てている事や、ふるさとが大好きになることに繋げている。 ・毎年、年中・年長児は福祉施設との交流は行っているので、体験を通して色々な人々に親しみをもち、関わる楽しさや人の役に立つ喜びを味わうことができるようになってきた。利用者の方との触れ合いでは、優しく手を握ったり、「先生、こうやればいい？」等、体が不自由な方達に対しても、相手を思う気持ちも出てきたように思った。触れ合いを通して、利用者の方にも笑顔が出たり、喜んでもらえているという気持ちが伝わった。訪問した時だけでなく、お家のお祖父ちゃん、お祖母ちゃんの愛情に気付いたり、家族を大切にする気持ちに繋がってほしいと思う。